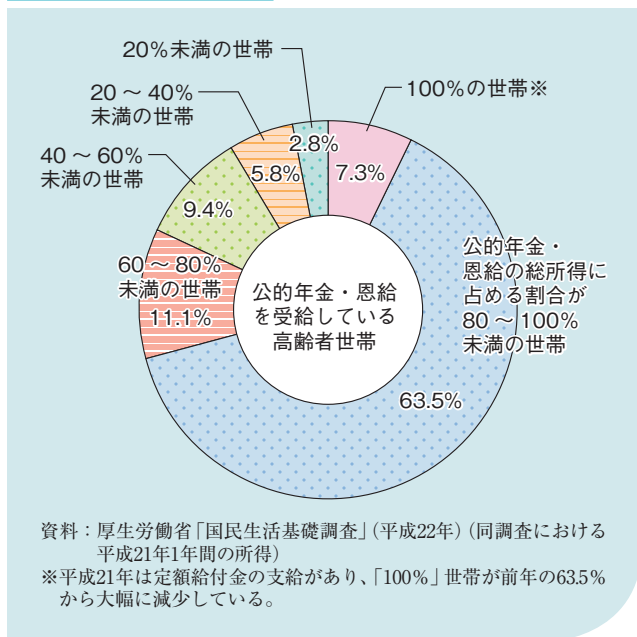


及び17（2005）年と比べると、20（2008）年では75歳以上以外では低下した。一方、40～49歳といった勤労世代については逆に上昇した（図1-2-2-5）。

（注1）ジニ係数とは、分布の集中度あるいは不平等度を示す係数で、0に近づくほど平等で、1に近づくほど不平等となる。

図1-2-2-3 高齢者世帯における公的年金・恩給の総所得に占める割合別世帯数の構成割合



#### （4）世帯主が65歳以上の世帯では、一人当たりの支出水準は全世帯平均を上回る

世帯主の年齢階級別の世帯人員一人当たりの1年間の支出は、世帯主が60～69歳の世帯が132.7万円で、70歳以上は126.9万円である。世帯主が65歳以上の世帯の支出は全世帯の平均を上回っている（図1-2-2-6）。

また、60歳以上の高齢者の支出に関する意識（優先的にお金を使いたいと考えているもの）をみると、「健康維持や医療介護のための支出」（42.8%）、「旅行」（38.2%）、「子どもや孫のための支出」（33.4%）の順になっている（図1-2-2-7）。

#### （5）世帯主が65歳以上の世帯の貯蓄は全世帯平均の1.4倍で、貯蓄の主な目的は病気や介護への備え

資産を二人以上の世帯についてみると、世帯主の年齢階級別の家計の貯蓄・負債の全般的状況は、世帯主の年齢階級が高くなるにつれて、1世帯当たりの純貯蓄はおおむね増加し、世帯主が60～69歳及び70歳以上の世帯では他の年齢階級に比べて大きな純貯蓄を有していることが分かる。年齢階級が高くなるほど、貯蓄額と持家率がおおむね増加する一方、世帯主が40～49歳の世帯をピークに負債額は減少して

図1-2-2-4 年金の給付水準と社会保障費の負担に関する意識

